



第71号

編集室 〒794-2114  
 愛媛県今治市吉海町  
 名2916-2 高龍寺内  
 TEL 0897-84-2129  
 FAX 0897-84-4495  
 Eメール info.koryuji@gmail.com  
 責任者 鴨井 智峯

## 暑中御見舞い申し上げます

高龍寺 院家

# 家族葬に思う

コロナ禍以降、葬儀の参列者の減少が顕著になっているように感じます。自粛要請期間には、お見送りしたくても県外移動に制限が掛けられ、参列が叶わなかったというお話も伺っています。

以前は地域でお一人亡くなられると、念仏講や大師講が中心になって葬儀の準備や賄いの手伝いなどして、地域で助け合って一人の方をお送りしていました。それが生活様式などの変化で、家で看取ることが難しくなり、病院や高齢者施設の助けを借りないと介護や看護が出来ないのも現実です。

時代劇などを見ておきますと、村八分という言葉を知ることができます。勿論現代では使わない言葉ですが、この言葉の意味は村人の総意で問題を起こした特定の家とは付き合わないという、かなり厳しい対処だと思えますが、全く付き合わないのではなく、火事と葬儀の二分は付き合いをするということです。それは火事と葬儀を放っておけば村の崩壊に繋がるからです。

4年間のコロナ禍を経験して、これまで行われていたことが簡略化されたり、しないことの言い訳になってるようにも思い、コロナ禍以前のような友人知人地域でお見送りする社会に戻ることを思う日々です。

合掌



お経という言葉聞いて、般若心経を想像される方が多いかと思えます。普段はあまりお寺に縁のない生活をされている方でも、般若心経を聞いたことがないという方はいらっしゃるだろうと思えます。

それでは、般若心経とはどういったお経なのでしょう。

般若心経を研究している人によって、解釈は色々異なりますが、一説では執着について説いたものだといわれています。

これは仏教でよく執着について使われる例えなのですが、目の前に泥で真っ黒な川があるとします。

大抵の方はその川を見て汚いと感じると思われるのですが、それはきれいな川を知っているからこそ、泥だらけの川を見て汚いと感じることができるのです。

生まれた時からその川しか知らなければ、泥だらけの川を見ても汚いと感じることはないのです。

このようにきれいや汚い、多いや少ないといったものは人間が主観で決めただけの事であり、それにこだわってはいけませんということです。

しかし現実的な話として、泥水を飲むことはできません。こだわってはいけないのは当然なのですが、こだわらないことにこだわってもいけないのが難しいところなのです。

人それぞれで事情が違います。汚いやきれい、多いや少ないなどどの程度のものが適切なのかは、その人によって異なります。

その適切どころを誰かに決めてもらうのではなく、自分で考えて自分で決めるのが大事なのだ般若心経では説いているのです。

とても難しいことではございますが、心に留めておいていただければ幸いです。

小野龍光さんによるお話会を開催します

# 人生の歩み方

～感謝とご縁にあふれて生きるには～  
ご自身の体験からお話しさせていただきます

2024年9月24日(火) 13:00～15:00

吉海学習交流館(愛媛県今治市吉海町八幡137)

定員 先着15名 無料

〈龍光さんプロフィール〉

1974年、札幌生まれ。東京大学大学院の生物科学修士課程を修了後、2008年よりベンチャー投資家として起業し「ジモティー」や「グルーポン」の立ち上げに関わった。その後、「17LIVE」の代表取締役役に就任。その一方で、南極や北極、サハラなどの極地マラソンにも挑戦。

日本のIT業界を牽引してきた実業家のキャリアを持ちながらも、旅行先で訪れたインドで佐々井秀嶺さん(インド仏教徒1億5000万人の最高指導者である日本人)に会い得度し、現在は「お金も地位も捨て何者でもない身になり」さまよえるボウズ”としてオーストラリアを拠点に、依頼があれば日本全国、外国へ行脚する日々を送っている。



※席に限りがあるので先着での事前予約制です。ご希望の方は、高龍寺(0897-84-2129)にお電話、または下記のURLからお申込みください。

<https://forms.gle/9arjnFeaXia6c2ao>

# アララギの安全対策を行いました

高龍寺の境内には樹齢が数百年と見られる「ナギ」と「アララギ」が並んで植えられています。「ナギ」は「凧」に通じ、航海の安全を祈る霊木で熊野三山の御神木でもあります。また、葉がちぎれないことから、縁結びの木としても知られます。「アララギ」は「イチイ(一位)」ともいい、一位とは聖徳太子が推古天皇時代に定めた、朝廷官人の序列を示す位階のうち最高位である正一位のことです。仁徳天皇時代に正一位の貴人が持つ笏しやくを作ったことから、この木をイチイと呼ぶようになったと伝えられています。古来より大変縁起が良いとされる木々が、並んで境内に植えられているのは、御神木として、数百年前に、その当時の住職によって植えられたものだと考えられます。それこそが、高龍寺が昔からこの地で信仰を集めてきた証であると思います。こちらのアララギですが、少し傾いておりましたので、万が一の為に安全対策を行いました。



▲安全対策の様子